

◇主語を「子ども」に

4月26日・5月17日に「教育情報化推進担当者研修」を実施しました。この研修で伝えたのは、「主語を『子ども』に変えていきましょう」ということです。

「授業には必要ない」「苦手だから使いたくない」…こう思う時の主語は、「先生（私）」になっているのではないでしょうか。子どもたちが、どんな職業に就くとしても、ICTとは切っても切れない時代になっています。**学習の基盤となる資質・能力の一つである情報活用能力を育成するため**にも、主語を子どもにして、端末の活用をお願いいたします。

研修では、令和5年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の結果を学校ごとにまとめた個票を担当に提示し、実態把握と令和6年度の取組計画作成を行いました。今後、各学校に個票を送付していく予定ですので、校内での共有及び活用推進の取組をお願いします。

令和5年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」結果

A：教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する

B：授業にICTを活用して指導する能力

C：児童・生徒のICT活用を指導する能力

D：情報活用となる知識や態度について指導する能力

※「わりにできる」若しくは「ややできる」と回答した教員の割合

HPには不掲載

◇新しい学びのカタチへ

端末の活用推進をお願いしていますが、もちろん、「端末を使うこと」が目的ではありません。

子どもがICTを日常的に活用することにより、**自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする**等の効果が生まれることが期待されています。

大分市内のある小学校では、修学旅行前に、目的地についてまとめた資料を子ども自身が作成し、意見交流を行う授業が行われていました。

- ・班の中で、調べる目的地を分担する
- ・目的地について自分なりに調べ、資料を作成する
- ・同じ目的地について調べた他班の子と情報共有し資料をブラッシュアップする
- ・自分の班に戻り、班員に目的地について説明する

先生は、**子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての役割**を果たしており、ほとんど話すことはありませんでした。

全ての教科、全ての単元で同じ活動をすることはできませんが、ICTを活用することで、少しずつ新しい学びのカタチを作り上げていけるように、レター等で実践事例を紹介していきます。



◇教育実習生の端末利用について

教育実習生もiPadを使用することが可能です。

着任が分かった時点で、転出入等連絡フォームから必要な情報を送ってください。（右 二次元コードから入れます）

《使用する端末》

- ・校内のiPad教師用予備機・共用機
- ・フォームに使用する端末名を記入します。（例）大分小T2033

《使用するアカウント》

- ・フォームには「なし」と記載します。
- ・フォーム確認後、大分市教育センターがアカウントを割り当て、Te-Comp@ssのメール機能で教頭先生宛て連絡します。

※端末を紛失した場合自己負担となってしまうため、校内での使用のみとします。

HPには不掲載

◇必ず、一緒に確認をしてください

iPadのホーム画面1ページ目に

「困った時は」のアイコンを設置しています。

子どもたちが困ったり、悩んだりした時に相談できる場所を掲載したページです。

子どもたちと一緒に、ページを開き、以下の2点を確認するようにしてください。



- ・どのような相談先が掲載されているのか
- ・それぞれの相談先は、どんな時に頼りにできるのか

また、相談先は匿名性を担保してくれることなども伝えていただくと、子どもたちが相談しやすいと思います。夏季休業に入るまでに、必ず、確認をお願いします。

【掲載している相談先】

◇エデュ・サポートおおいた ◇子ども家庭支援センター

◇ヤングケアラー相談窓口 ◇孤独・孤立対策

◇チャイルドライン

◇ネットトラブル相談窓口

◇スクール・セクハラ相談窓口 等

◇デジタルドリルについて

昨年度から試用しているデジタルドリルですが、現在、年度更新作業を進めています。全ての作業完了しましたら、通知にて連絡します。

なお、年度更新作業は随時行っており、更新期間中でも使用することは可能です。

※学年が昨年度のままの場合でも使用可能です。